

解体工事で見えた先代からのメッセージ

◆ 又新殿・霊の湯棟



和紙を使って養生した御居間の障壁画。柱や敷居に障壁画を嵌め込み、四分一と呼ばれる細い木材で釘止めされていました。養生に使用される生麩糊は、小麦粉から抽出したでんぷんを煮溶かしたもので、高い接着力があります。長い年月を経て障壁画を汚さず、水を加えることで容易に剥がすことができ、国宝や指定文化財の修復現場で使用されています。

展示室西廊下の天井板。部分的に削られています。「乙號縁側天井板 明治廿一年十月四日(右写真)」と「乙號縁側天井板參拾六枚之内 松山住富永寅太削之明治廿二年十月十六日」の墨書きが発見され、建築当時の材料がそのまま使用されていることが分かりました。



ぬれえん 濡縁東壁



※調査段階のため未確定

おひらみんそでかへ 御成門袖壁



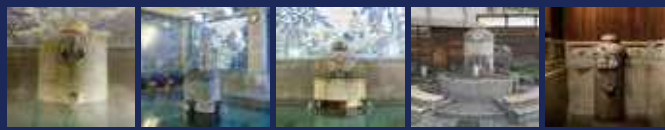
※調査段階のため未確定

漆喰壁を構成する層。漆喰壁を解体すると、仕上と推測される層を見ることができ、修理の履歴が分かりました。①小舞(土壁の地下)や古い土壁が残っていることから建築当初の材料や壁の構成を確認でき、また、建物の保存状態が良いことが分かりました。

◆ 南棟

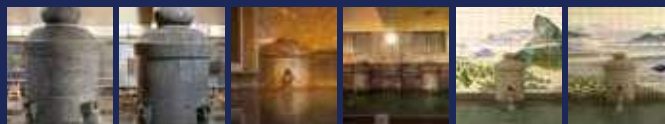


南棟の東脱衣室内で発見された階段の跡。昔の図面・資料などによる考察から、建築当初の大正13年(1924)から昭和15年(1940)まで使用されていた階段と推測されます。



湯釜紹介

道後温泉の湯釜は石製で、古くは奈良時代から使用されていたと伝わります。他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第1回

湯釜薬師

正面に薬師如来の尊像を彫った湯釜薬師(直径166.7cm、高さ157.6cm)は、道後温泉の薬効信仰に基づいた石造物で、石材は花崗岩です。

鎌倉時代の正応元年(1288)、河野通有の依頼で、その宝珠に「一遍上人」が「南無阿弥陀仏」の6字の名号を書いたと伝えられ、享禄4年(1531)には、河野通直が尾道の石工に命じ、胴回り部に天徳寺の徳応禅師撰文の温泉記を彫らせました。

この湯釜は、天平勝宝年間(749~757年)に造られたと伝えられ、明治27年(1894)頃まで使用された、道後温泉史上貴重な資料です。神の湯本館の改築の際、熱湯による石表面の風化が進行し、文字が読み取れなくなったため、現在の神の湯男子の湯釜に取り替えられました。

昭和29年(1954)、愛媛県の有形文化財(石造美術)に指定され、現在は道後公園の北口に入った所に保存展示しています。



- 補助事業名(重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業
- 補助事業費/国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金
- 施工者/門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体 ■監理者/文化財建造物保存技術協会

道後温泉本館は、神の湯で入浴できます。

※霊の湯(男・女)、又新殿、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。



■お問い合わせ先 道後温泉株式会社 松山市道後湯之町5番6号 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141
[道後温泉公式サイト] https://dogo.jp



重要文化財 道後温泉本館 保存修理工事

歴史をつなぐ 未来へのこす

愛媛 松山 道後温泉



営業中



神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。
 檼瓦及び銅板葺の木造3階建て、1階に浴場、2階・3階を休憩室とし、入母屋造の大屋根の上に塔屋を設けています。
 (※1階で入浴できます)

又新殿・霊の湯棟

修理中

明治32年(1899)竣工。日本唯一の皇室専用浴室のある又新殿・霊の湯棟は、銅板葺及び檜皮葺の木造3階建て、正面(東面)に御成門があります。



修理中



南棟

大正13年(1924)竣工。養生湯として建築され、神の湯本館と同じく、檼瓦及び銅板葺。修理前は、神の湯女子として使用していました。

玄関棟

修理中
(内部のみ)

大正13年(1924)竣工。神の湯本館と南棟を合わせて、建物全体を整えるために移築されたと伝えられています。また、「道後温泉」と書かれた看板は昭和25年から飾られ、現在は2代目です。



素屋根工事

素屋根とは…本館保存修理工事では屋根部の修理で瓦や銅板を外す必要があるため、建物の躯体が風雨にさらされると、傷んでしまいます。そこで、建物全体を覆う素屋根を設置します。



素屋根工事は大型クレーン2台を設置するため、夜間、道路を封鎖して行いました。(県道全面通行止)
 (令和元年6月4日深夜～)

1つ目のフレームの組み立てが完了。本館保存修理1期工事は全部で9つのフレームで素屋根が構成されます。(令和元年6月5日)

9つのフレームの組み立てが完了。又新殿・霊の湯棟、南棟の一部が覆われました。(令和元年6月10日)

東側・西側の側面(裏面)の組み立てが完了。今後、外部を専用シート(テント膜)で覆う完成します。(令和元年6月16日)

〈大きさと構造〉 本館保存修理1期工事の素屋根は、全体の長さは南北約34m、東西約19m、高さ約20mです。9つのフレーム(鉄骨)で構成され、1つのフレームの重さは約9tです。なお、1期工事中は道後温泉本館の東側を覆いますが、東側の外部工事後、素屋根は西側にスライドします。

〈設置方法〉 工期短縮のため、他の敷地で現地状況を再現し、仮組を行いました。当日は、あらかじめ一部組み立てたフレームを、夜間に道後温泉本館東側の道路(県道)に搬入し、つなぎ合わせました。それを大型クレーンで吊り上げ、基礎の上に据え、西側へスライドさせながら、又新殿・霊の湯棟と南棟の一部を覆うように設置しました。

本館保存修理工事の進捗状況(令和元年7月時点)

本館保存修理工事の主な工事内容は、①屋根の葺き替えなど文化財的価値の保存、②地震への備え、③温泉配管など設備の更新の3つです。現在は神の湯本館棟を除く、又新殿・霊の湯棟、南棟、玄関棟の解体工事を実施しています。

- ◆ 又新殿・霊の湯棟
 又新殿は畳と建具、障壁画の取り外しが完了しました。霊の湯棟脱衣室の床と壁の解体を実施しています。
- ◆ 南棟
 建物の下に各種配管を通し、点検スペースを造るため、浴場の敷石を取り外しています。その他、内部の解体を実施しています。
- ◆ 玄関棟
 内部の解体を実施しています。今後、地震への備えとして、天井裏や壁の中に補強材を取り付けます。

人がつなぐ 担当者の声

Q. 本館保存修理工事のポイントは?

A. 道後温泉本館は温泉施設のため、湿気により木造部分の傷みが避けられません。また、設備などは定期的に更新していく必要があります。ただし、建物は重要文化財に指定されていますので、安易に古いものを撤去し新しいものに取り替えてしまうと、文化財としての価値が損なわれかねません。
 今回の保存修理工事では「いかに古いものを残しながら直していくのか」が重要で、貴重な建築当時の部材を残していけるよう取り組んでいます。



公益財団法人文化財建造物保存技術協会
 工事監理者 梅津秀基さん

Q. 本館保存修理工事期間中の魅力は?

A. 本館保存修理1期工事中は、工事エリアと営業エリアを分けていますので、営業エリアの「神の湯」で温泉を楽しんでいただけます。これまでの「神の湯」には男湯が2つ(東・西浴室)ありましたが、今回の工事から男湯の1つを女湯とし営業しています。そのため、1期工事期間中は、女性の方はこれまで入ることができなかった旧男湯を楽しんでいただけます。

道後温泉本館保存修理工事スケジュール

2018年度～2024年度(予定)

	2018年度(平成30)	2019年度(令和1)	2020年度(令和2)	2021年度(令和3)	2022年度(令和4)	2023年度(令和5)	2024年度(令和6)
素屋根工事		組立	1期工事	移動	2期工事		解体
神の湯本館棟	入口切替				内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替	入口切替			
南棟		内部・屋根解体調査	内部組立・屋根葺替				
玄関棟			内部解体調査	内部組立	屋根解体調査	屋根葺替	入口切替
便所棟		解体		改築			
本館周辺整備		埋設物調査		塀復旧			石柵復旧

★現在